アジアの起業とイノベーション

木村公一朗

近年、アジアでもインターネット系やテクノロジー系の新興企業（スタートアップ）の増加や、起業を通じたイノベーションに注目が集まっている。さらなる経済成長のために、スタートアップというイノベーションの新しい担い手への期待が高まっているからだ。既存文献をみると、アジア各地のスタートアップやそのエコシステム、すでに大企業となったインターネット系中国企業の成長プロセス、深圳やシンガポールにおける新しいモノづくりの動き（メイカーズ・ムーブメント）などがいち早く伝えられてきた（それぞれ参考文献①、②、③）。

もちろん、起業はこれまでも、アジア諸国・地域の産業発展を牽引してきた。産業によっては外資系企業や国有企業の存在感が大きいこともあるが、多くの民間企業の参入も産業全体の生産拡大と競争を通じた価格下落・品質向上に貢献してきた。とりわけ中国の携帯電話機産業や太陽電池産業、レアアース採掘業などの産業では、無数の企業が参入したことで、これらは同国を代表する産業にまで発展した（参考文献④）。

しかし、近年のスタートアップには既存企業の成長パターンと異なる点もある。中国製造業の発展を振り返った場合、既存大手は技術開発より市場開拓、その市場開拓も海外より国内を重視しながら急成長してきた。一方、深圳のハードウェア・スタートアップをみると、創業当初からイノベーターであり、また、グローバル企業として成長しようとしている（参考文献⑤）。その背景には、まず、IoT（モノのインターネット）やロボットなど、新しい製品の市場が生まれていることがある。また、オープンソースのソフトウェアやハードウェア、クラウドファンディングなどの各種ツールやサービス、スタートアップ・エコシステムの発展によって、起業のハードルが下がったことも大きい。事業環境の世界的な変化は、新しいタイプの企業を各地で多数生み出す可能性がある。

そこで本研究会では、近年のスタートアップの増加に注目しながら、アジア諸国・地域の産業発展が変容しつつあるのか否かを検討する。研究会活動を通じて、まず、スタートアップによるイノベーションの実態や特徴を明らかにしていきたい。また、起業増加の背景として、スタートアップ・エコシステムの各種構成要素（投資家、大学、政府、産業集積など）の役割にも注目する。本研究会の成果がアジア経済の変化を理解するための一助となれば幸いである。

（きむら　こういちろう／アジア経済研究所　技術革新・成長研究グループ）

《参考文献》

① Fannin, Rebecca A., *Startup Asia: Top Strategies for Cashing in on Asia's Innovation Boom*, Singapore: John Wiley & Sons (Asia), 2011.
② Tse, Edward, *China's Disruptors*, New York: Portfolio/Penguin, 2015.
③ 高須正和＋ニコニコ技術部深圳観察会編『メイカーズのエコシステム　新しいモノづくりがとまらない。』インプレスR&D、2016年。
④ 丸川知雄『チャイニーズ・ドリーム──大衆資本主義が世界を変える──』ちくま新書、2013年。
⑤ 木村公一朗「中国企業の変化──起業を通じたイノベーション──」『アジ研ワールド・トレンド』No.258、2017年、38～42ページ。

開発支援スペースのオープニング・イベント（深圳のx.factory）（筆者撮影）